

## 平成25年度第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成25年9月27日10時00分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

(議事内容)

○ 場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○ 出席者 委員：10名 オブザーバー：10名

○ 報 告 (1) 秋田市中心市街地情報の当所HPによる情報発信について  
(2) 中心市街地にぎわい創出事業「アニメ×アイドルフェスティバル in AKITA」開催結果について  
(3) まちなかプロジェクトチームトライアル事業実施状況について  
(4) 中心市街地個店等情報発信事業【あきたまちぐる〜と】の作成について

○ 協 議 (1) 中心市街地活性化の今後に向けた課題について  
(2) 中心市街地のグランドデザインの作成について  
(3) 今後の協議会活動について

○意見交換 (1) 今後のイベント予定と冬期間のにぎわい創出について

○ 結果報告

渡邊靖彦会長が開会挨拶を行った後、会議の進行をした。

【報告】

報告(1)「秋田市中心市街地情報の当所HPによる情報発信について」、報告(2)中心市街地にぎわい創出事業「アニメ×アイドルフェスティバル in AKITA」開催結果について、報告(3)「まちなかプロジェクトチームトライアル事業実施状況について」、報告(4)「中心市街地個店等情報発信事業【あきたまちぐる〜と】の作成について」は、事務局より一括して説明を行った。

【協議】

次に、協議案件について、案件(1)「中心市街地の今後に向けた課題について」、案件(2)「中心市街地のグランドデザインの作成について」(3)「今後の協議会活動について」、以上3つはいずれも関連性があることから、事務局より一括して説明。①「中心市街地の具体的なマスタープランの作成は必要である」、②「マスタープラン作成に向けた地元の意見を協議会として集約していく」、③「現計画の検証も併せて進めていく」の3点について委員の皆様から承認をいただいた。

### 【意見交換】

続いて意見交換（１）「今後のイベント予定と冬期間のにぎわい創出」について、事務局より中心市街地で開催される１０月～１２月のイベント状況について説明。その後、秋田市企画財政部企画調整課内藤にぎわい創出担当官が、冬季に秋田市で計画しているイベントの実施予定について説明を行った。

また、秋田県企画振興部地域活力創造課土田推進監が「秋田県の中心市街地活性化に係る県の取り組み」について説明した。

※「協議」で出された意見は次のとおり。

秋田市都市整備部 土田部長

・名称は別として、基本計画終了後の中心市街地活性化の構想については必要だと理解している。ご承知のとおり来年の６月に基本計画が終了するため、コンサルタント会社に依頼をして実績を整理しており、３月くらいに報告書が出来る予定。どれだけ効果があったかはまだ不明であるが、ある程度目標よりも上向きで報告されてくると思われる。市としては、今すぐ基本計画を作成するという事は想定しておらず、まずは現計画を反省・検証を踏まえて総括する必要があると考えている。経産省で発表した「重点支援区域」制度はいい制度であり、民間が行いたいという事業をこれに載せていけるのではないかと考えている。また、基本計画の中核のコアとなる事業が構想段階のものを含めてたくさんあり、その中のひとつである県・市で検討している大型文化施設構想計画について、もし中心市街地内に作るということであれば、地域の方々や商工会議所を含め、計画を整理していかなければならない。我々が考えているのは、この協議会内部に検討委員会を設置し、中心市街地の現況把握、現計画の検証・総括を行い、商業関係者・消費者の思いを探しながら、中核のコアとなる事業の位置づけを行い、事務局と肉付けをしながら計画を作っていきたいと考えている。

秋田市大町商店街振興組合 高堂理事長

・「エリアなかいち」が完成し、残されているのが中心市街地の西側である。大町商店街として、大町地区のさきがけ跡地の活用に向けた取り組みを行っている。また、同じく空地になっているニューシティ跡地の活用について、今後具体的に組みこんでいこうとしている中で、残念ながら中活計画が来年６月で終了することから、早い段階でのマスタープランの作成をお願いしたいがため、本日出席した。新しく作成するものと、反省・検証を並行に進めて是非早い段階でマスタープランの作成をお願いしたい。基本計画で認定されれば補助率が良くなるというのは事実であることから、民間の我々も努力していくので、市で第２期基本計画の作成をお願いしたい。

秋田市総合振興公社 佐藤理事長

・土田部長の意見に同感であり、まずは市議会から現計画の評価を求められるので、商業者側の気持ちもわかるが、検証してどのようにしていくかということを考えなければならない。PDCA

サイクルで検証し、議会にも説明していかなければならない。事務局に確認したいのは、基本計画が終了すれば、計画を作成する際に例えば1~2年のタイムラグがあった場合はどうなるのか。現計画はまだ未着手の部分もあり、ハードは難しい部分もあるが、ソフト面を含め、これを繋いだ形でやるということはできないものかと思っている。

秋田市広小路商店街振興組合 佐々木理事長

・高堂理事長の話された内容に尽きると思う。にぎわいづくりでまだまだ街区内には課題は多く残されている。基本計画終了後、第2期基本計画を作成するまでのタイムラグ1~2年が怖い。モチベーションが下がるかもしれない。我々はアートの回廊事業で経産省から補助金をいただいて事業を進めているが、経産省からは上位計画（中活計画）との整合性を常々指摘されてきた。外旭川にイオンが進出すれば市内の商業者は崩壊するだろう。私はマスコミに反対の意思を表明したが、市民からすれば市内の商工業者は「何をやっているのか？あなたたちは何もやっていないではないか」など、ただ反対してばかりのクレーマーとして見られかねない。前回の協議会でも述べたが、法律では農地転用の問題があって厳しいと思われるが、地元がOKすれば進出してもいいという話が聞こえてくる。基本計画も行政の事業なので総括はしっかりとやらなければならないが、間髪おかずにマスタープランは作成していかなければならないと思う。ハード・ソフト面で細かい問題はあると思うが、市民に対してどのような未来を提供していくかを、しっかりと考えていかなければならない。道半ばのものを放棄しないよう力添えをお願いしたい。

東北地方整備局都市・住宅整備課 石津建設専門官

・基本計画の総括というのは非常に大事なことである。中心市街地活性化については、一人一人色々な思いがあると思うので、研究会で地域や行政と一緒にリンクして方向性を定めていただきたい。

秋田市広小路商店街振興組合 佐々木理事長

・期限のない目標を作っても意味がない。同時並行するのが一番いいので3月までに市が基本計画を検証し、ネットワーク研究会でプランを掲げていくのが望ましい。

秋田市都市整備部 土田部長

・ネットワーク研究会を利用するのはわかる。しかし、基本計画を検証して、将来計画をどのようにしていくか。皆様のやる気をそぐようなことはしたくない。関係者の方々の努力をサポートするのが我々の役目である。検証して国へ基本計画の報告する義務もある。第2期基本計画という形でなくても、すぐに計画づくりができる状況にしたい。そのために同時並行するという形がいいかはわからない。

秋田商工会議所 柴田専務理事

・ネットワーク研究会でこれまでの計画を検証し、結果を踏まえながら内部で検討させてもらいたい。協議会本体でやれば一番いいのだが、なかなか集まるのが難しいことから、ネットワーク研究会を協議会の下部組織とし、関係者から協力いただくメンバーを選定して研究を進めていくことを市へ相談させていただきたい。その結果、これからの取り組み方を何らかの形として結果を出すようにしていきたい。

秋田市広小路商店街振興組合 佐々木理事長

・基本計画を検証するということが何なのか、先があるから比較するための目標がある。完璧なまちづくりの目標を作ってくれということではない。極論を言えば、中央街区の売上を600億円にしようというものである。とにかく明確な方針を示していただきたい。

秋田市都市整備部都市総務課 檜岡副参事

・基本計画の検証だが、基本計画の目標数値をコンサルタント会社に委託して調査を行っており、結果が出るのは平成26年3月末である。調査項目は①歩行者・自転車通行量、②定住人口、③小売店舗の売上高、④空き店舗数の4つで平成25年度はどのようになっているかを調査している。土田部長が言われた検証とは、現基本計画の46項目がどのようにまちづくりに貢献しているか、波及効果を確認するという別の立場から話をされている。その件に関しては委託しているコンサルタント会社から報告される3月末後である5月～6月以降に考えていかなければならない。

渡邊会長

・検証とプランの作成を同時に並行して行っていくのか、本日は結論がでないと思うので、もう一度事務局で検討をさせていただきたい。

秋田商工会議所経営支援部 浅野部長

・皆さんの発言を整理すると、来年6月の計画終了後、名称は別として、「中心市街地の今後の方向性をまとめたマスタープランは必要で、市に要望していく」、「マスタープラン作成へ向けた地元の意見を協議会で集約していく」、「現基本計画の検証も併せて進めていく」、この3点に関しては合意できたと思うのでご確認いただきたい。

渡邊会長

・事務局の整理どおりでよろしいでしょうか。

会 員

・異議なし。

※「意見交換」の内容については次のとおり

秋田市企画財政部企画調整課 内藤にぎわい創出担当官

・秋田市では冬のイベントの開催に向けて予算を準備している。11月以降の冬場の民間のイベントが少なくなるため、11月後半から2月初旬までイベント開催を企画していく。昨年同様に県、市、商工会議所、民間事業所等で実行委員会を立ちあげる予定であり、土・日曜日を中心に、クリスマス、大みそか、雪祭りの時期にかけて行っていく。また、夜の「エリアなかいち」に光のイルミネーションを設置も予定している。10月末に実行委員会を開催するので関係者の方々にはよろしく願いたい。

秋田県企画振興部地域活力創造課 土田推進監

・秋田市中心市街地に係る県の取り組みについて説明したい。県のスタンスとしては「認識」として「あそこにいけば何かがある」というイメージの定着、「手段」として「秋田市の事業や地域商業者等の取組と連携」、それらが中心市街地全体のにぎわいに波及する取り組みを市や民間と一緒に一体となって進めていくことを目的としている。県の推進体制は「エリアなかいち」を含む中心市街地のにぎわいづくりについて、庁内横断的な検討組織として、「中心市街地活性化庁内検討会」を設置した。中心市街地のイベントなどの情報共有や意見交換のほか、関連施策の企画・立案等を全庁横断的に行っている。また中心市街地活性化に向けた提案を、県庁各課より募集をしている。今後の展開については、秋田市等とのネットワークの構築で、「秋田市中心市街地活性化協議会」や「にぎわい創出ネットワーク研究会」等の会議に参加し、秋田市や商店街が実施するイベントの取り組みについても、積極的に支援していく。また、県としての支援策の検討等については、冬期間のイベントへの支援をしていく。県主催のイベント等の中心市街地関連事業の連携の可能性の検討については、小さなイベントではなく、集約して大規模なイベントで行っていきたいと考えている。

最後に、庁内各課から提出されたにぎわい創出の提案については、地域資源を活用したイベントの開催や空き店舗活用、移住対策、歩行者天国などの歩行空間の確保、中心市街地のイベント開催についての情報発信を行っていくなどの提案があった。県でできるイベントは県で実施し、市や民間で行うイベントはできる限り支援していききたい。

秋田市広小路商店街振興組合 佐々木理事長

・「エリアなかいち」で商売を行っているが、県、市からは予算をかけて「エリアなかいち」でイベントを行っていただき、大変感謝している。イベントがある・なしで売上が大きく変わる場合もあるが、商業側としてイベント疲れを起こしている感じも見受けられる。イベントという薬の刺激は必要だと思うが、基本は「イベントが無くても来てくれるまち」を形成できるように、この協議会が引っ張っていただきたい。

#### 河村中心市街地商業活性化アドバイザー

・商工会議所のタウンマネージャー時代から、中心市街地の活性化に携わって約3年になるが、その間に、広小路のアーケード撤去事業や大町のコミュニティ施設関連事業に関わってきた。県・市民に対しては、まちが変わっていくことを見せるということが大切。例えば大町のコミュニティ施設は、開発手法で市より土地を定期借地という形でお借りして、信託という新しい事業スキームを取った。経産省の戦略補助金を活用して検討をしていたものの、例えば、まちづくり会社や商店街など相手がはっきり見えないと補助金の対象にならないと経産省より指摘をされた。信託方式は東京であれば、ファンドを作って補助金無しでできるものの、秋田には投資する人が少ないため、信託方式では難しく、やはり補助金が必要となってくる。国の補助要綱を変えていく必要があることや、環境づくりを整えるため協議会でソフト面も改善していくなど、国に対して要望をしていく必要があると思う。どうやれば事業化がやりやすい手法があるか、秋田に思いがある人が集まって地元で投資し、銀行からも支援していただき、最終的に補助金を活用して負担を少なくする。そういう新しい事業スキーム作りを国に対して要望していきたいと思う。

秋田も少しずつではあるが変わってきている。事業者のモチベーションを大事にしていきたい。駄目な理由を最初からいう人もいるが、駄目をどのようにできるように変えていくか、事業者の意識や行政がどのように支援すべきか、できるように可能性を信じていくことが大切だと思う。

閉 会